

彼は、破傷風については十分な知識をもっていたので、
本病の本体は、敗血症であったと推定する。

(徳島市)

本邦放射線事始に尽した人びと

今市正義

“スウェーデン王立科学アカデミーは、アルフレッド・
ノーベルが、彼の遺言状の中で創設した偉大なる賞のうち
の二つの授与を行なう特権を、ノーベルから与えられまし
た。——アカデミーは、ノーベル物理学賞を、ミュンヘン
大学のウィルヘルム・コンラッド・レントゲン教授に、お
贈りすることに決めました。——ここで、レントゲン線に
ついて発見された性質の一つだけを、思いおこしてみること
にいたします。

それは、医療におけるエックス線の広範囲の使用の基礎
をなしている性質です。——”

一九〇一年二月一〇日、ウードネル王立アカデミー総
裁は、このような授賞のことを述べた(中村誠太郎・小沼
通二編「ノーベル賞講演 物理学」三五ページ)。

一八九五年一月、エックス線の発見は、一九世紀における科学上の偶然性と必然性の相関を示すものとして、世紀末を飾るにふさわしいものだった。

翌九六年（明治二九年）三月、水野敏之丞は、長岡半太郎がベルリンより送付のエックス線写真を上掲した「レントゲン氏の大発見」を、「東洋学芸雑誌」一七四号により、本邦最初の紙上紹介とした。

本邦放射線事始は、この月を起点として、水野敏之丞・丸茂文良・村岡範為馳・糟谷宗資・島津源蔵・同じく源吉・藤木栄太郎・山川健次郎・鶴田賢次・水木友次郎の人びとによって、実験が開始された。

せいぜい、一メートル平方の小机の上で、お身の頭に角あり その眼 銀月の如く冴へ お身の胴体 くらがねの如く壮重なりき」と、梅谷友吉を詠嘆させたように、クルックス管と感応コイルを注意ぶかくにらみ合せ、数十分を費して被写体を乾板上に潜像させる実験が、科学の三界から、物理界をひた走りに医学にも足を留めるようになら

うとは。

演者は、主として京都を中心に、品川弥二郎・明治の万葉歌人天田愚庵にも眼を注ぎたい。

（高知県安芸市 森澤病院放射線科）